

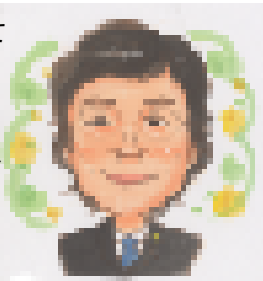
稲葉健二のコラム

現在市川市では飼い主のいない猫の不妊手術に助成金を出しています。不幸な猫を増やさないための施策です。捨て猫がうるさいから、どうにかしてくれ」などの苦情が市川市にもよく届きます。猫の特性も含めて考えると、犬のようにつないでおくこともできませんし、狂犬病予防法などの法律での登録や予防接種もありません。これ以上不幸な猫を増やさないためには一つの考え方ですが、手術をした猫をどのように区別するのか、手術の申請数も地域によって格差がありますし、取り扱った病院の頭数にも格差がありました。

私が言いたいことは、このような野良猫（飼い主のいない猫を昔はこのように言っていました、今は地域猫と呼びます）を生んだ原因は、猫の飼育を放棄したり、捨てた飼い主にあると思います。ちゃんと飼育されている猫の不妊手術にも同様に助成金を出し、不幸な猫を生まないように同時に進めていく必要があると思います。川下の整理をするだけではなく、川上の整理もしていくことが重要ではないでしょうか。犬の時にも触れていますが、動物は本当に可愛いし癒されます。しかし、飼うからには最後まで責任をもつことが当たり前ですが、一部の心無い飼い主のおかげで可愛そうな犬や猫ができてしまいます。

税金を使っているいろいろな施策をするのですから、事業の検証もして本当に役に立つようにしなければなりません。そして、少しでも良い施策になるように、方向を変更したり、拡大や縮小も考えなければなりません。

最後に考えて欲しいことは、本当は人間が当たり前のことをやって、ルールやマナーを守っていれば、このような施策に税金を使うこともないのです。一部の方たちから発生した悲しい出来事のために大事な税金を使うことのむなしさを感じています。



市川市の情報コーナー

駐輪場を建設しています

来年の3月オープンを目指して、市川市が土地を借りて建設しています。定期駐輪として320台、一時置きタイプとして100台で、全部で420台駐輪できる予定です。駅前買い物に行かれる時は便利だと思います。場所は本八幡北口の一番街商店会に入っすぐのところで昔ラーメン店の所です。



駐輪場として無料で利用できます

暫定的ですが南八幡に無料駐輪場が開設されました。来年の三月一杯までの期間限定ですが、駅の近辺に止める場所が少ないことを考えるとありがたいと思います。最近駐輪が厳しくなって苦情も多くありますが、本来は駅周辺は一切とめることはできないと条例で定めています、ご協力下さい。場所は本八幡南口のマックを右に入った所です。



八幡小の校庭の土が入れ替わりました

夏休みに工事をして、八幡小の校庭の土が全面的に入れ替わりました。面積は2400㎡あります。入れた土の量は240立方メートルです。岩瀬砂という風に飛散しずらく、ころんでも擦り傷にならず、水捌けも良いというものです。総費用は約592万円でした。



菅野児童公園の遊具がつかまりました

前回の号でお知らせしていましたが、今年度の予定していた遊具がつかまりました。かわいいものをお願いしていました。もう一つつく予定です。地域の方たちの憩いの場所になったり、子ども達が楽しめる場所になれば嬉しいです。三角公園として地域で大事に育てたいけるといいですね。



「意見・要望等をお気軽にご相談ください」



市川市議会議員 稲葉健二の 一言メッセージ

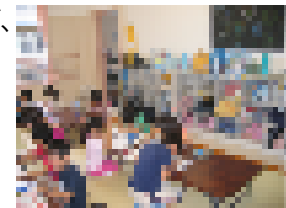
25

平成20年10月31日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡 2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

子ども達の居場所の特集です。

昨年教育についての特集でも書かせていただきましたが、現在市川市の公立小学校の児童数は23231人です。（20年5月1日現在）そして放課後保育クラブ（昔は学童と言っていました）でお預かりしている子ども達の数は2505人です。複数のお子さんを預けている方もいらっしゃるの単純に割合は出せませんが昔に比べると多くなっています。また、一部の地域では待機児童がいたこともあります。学校によっては教室数を増やして受け入れる人数のところも多々あります。受け入れる児童は三年生終了時までですが余裕がある場合は四年生の夏休みまで可能です。（障がいを持ったお子さんは違います）いろいろな方の意見の中で、「もう少し期間を延ばして小学校終了までにして欲しい」「預かる時間を延ばして欲しい」などが多く聞こえてきました。

そのような中で今回の一般質問で取り上げたのは、保育時間の延長の考え方です。社会の構造が変わってきたり、仕事の種別によってとか、通勤時間の関係とかによってお迎えの時間に余裕がなくなってきた方が増えているのだと思います。ここで何が言いたいのかということです。利用者の便宜を応援していくことは大事なことです。ただ、単に延長希望者のために指導員を配置し、建物を使用することが優先することなのか。それは、経費がかかることを考えるからです。現在1人の子どもを預かるためにかかる単純経費はおよそ月22737円程度かかっています。国と県からの補助金はおよそ4744円です。残りの約18000円を市川市と保護者でということになります。現在保護者の方からは8000円いただいています。おやつ代は別ということは一月に一万円くらいの補助金が出ていることになります。私の意見は延長を否定することではなく、本来は子どもを預けなくても良い環境や早くお迎えに来れるような環境整備の方が大事ではないかということです。30分延長することも大事ですが、ができるような仕事の環境や児童補助などの施策を考えることではないでしょうか。保育延長経費を受益者負担でも遂行すべきか、行政が持つべきものか、ニーズがどのくらいあるのかも含め落ち着いて考え、一部の特別な事情がある方には個別の対応や別の子ども施策と連携して進めることも大事ではないでしょうか。



市川市放課後保育クラブの一室